



その中で、奇跡的に焼失を免れたのが光輪院です。当時寺には数十人の海の特攻隊「特四式襲撃隊」の兵士が止宿し、近海での出撃に備え訓練に励んでいました。この隊員たちが総員で消火に奮闘、屋根瓦を突き破って落下した焼夷弾をすばやく消し止めるなど大活躍し、見事木造の

九州八十八カ所お巡りの第七十二番札所である光輪院は、初代有森清隆住職に始まり、現在は四代目の隆英住職。境内の不動三尊や十基の大型石仏坐像など、市街地に近い寺として訪れる人が多く見られます。

滅的な被害を受けました。昭和二十年六月二十九日、佐世保は前日の日付が替わるころアメリカ空軍B29爆撃機による空襲に見舞われました。名切谷は有数の繁華街だった太田町を中心に隣接の花園、祇園、光月、宮地、島瀬の各町とも壊滅的な被害を受けました。

この縁で敗戦後もお寺と元特攻兵士の交流が続く、昭和五十七年、境内に「特四式襲撃隊員之碑」が建てられました。光輪院は真言宗高野山派の寺で、明治三十五(一九〇二)年の佐世保市制施行に前後して開山しました。空襲での焼失を免れた本堂、隣接の毘沙門堂とも当時のもので、本尊の阿弥陀如来立像は八百年ほど昔の鎌倉時代の作といわれます。また、毘沙門堂の彩色された高さ二メートル近い堂々たる毘沙門天は、国宝「信貴山縁起絵巻」で知られる奈良・平群町の朝護孫子寺から分霊してきた福徳開運の護法神です(写真)。

## 歴史散歩 第五六三回 特攻兵が守った寺・祇園町 撮影・文・筒井隆義

佐世保医師会館と並ぶ一角に櫛山光輪院が建っています。本堂正面は改装されていますが、隣接の毘沙門堂は見るからに古色を帯び、付近一帯のビルの中で特異な存在感があります。

本堂を守り抜きました。

## いのちを見つめる講演会

### 戦場カメラマンが見た「いのち」

本市では毎年6月を「いのちを見つめる強調月間」とし、各小・中学校などで心のふれあいが深まり、命の重みを感じ取ることができるような取り組みを行っています。この取り組みの一環として、テレビ番組などでも活躍中の渡部陽一さんを本市にお招きし講演会を開催します。皆さんの参加をお待ちしています。

と き 6月16日(土) 14時~16時

※開場13時30分

ところ 市民会館(花園町)

入場料 無料

講師 戦場カメラマン 渡部 陽一 さん

講師プロフィール▶ 渡部 陽一(わたなべ・よういち)

昭和47年、静岡県富士市生まれ、明治学院大学法学部卒業。平均して1年の半分は海外に滞在し、ルワンダ紛争、コソボ紛争、チェチェン紛争、ソマリア内戦、イラク戦争など約130の国と地域の紛争を取材。雑誌、テレビ番組などで作品を配信したり、現地からレポートを行ったりしている。戦場カメラマンとして力を注いでいることの一つが「戦禍の子どもたちを撮影すること」で、「戦争の一番の犠牲者が子どもたちであることをたくさんの人知ってもらいたい」と話す。

※申し込み不要。満席になり次第、受け付けを終了します。

※駐車場に限りがあるため、なるべく公共交通機関をご利用ください。



☎学校教育課 ☎24-1111



http://zenkyo-nagasaki.com/

今回は、佐世保メイン会場(ハウステンボス)内の各エリアを紹介いたします(予定)。

- エントランスエリア⇒大会マスコット「かさべこくん」がお出迎え。観光・文化を発信するブースを設置
- 競いのエリア⇒全国のエリート和牛が日本一を目指した真剣勝負を繰り広げる審査会場など
- 学びのエリア⇒畜産の最先端の技術などを紹介する「モ〜モ〜博物館」などを設置
- 集いのエリア⇒いろいろなイベントが開催される屋外ステージや休憩コーナーを設置
- 憩いのエリア⇒ふれあい動物広場などを設置
- 味わいのエリア⇒日本を代表する有名ブランド牛の試食、長崎和牛のパーベキュー、出店など

和牛についていろいろな角度からお楽しみください!

☎10月25日(土)~29日(日) ☎農業畜産課 ☎24-1111

## 佐世保の食 13 九十九島の岩がき



本市の新たな特産品として今後期待されるのが、「岩がき」です。すでに本市特産品としておなじみとなっている「九十九島かき」はマガキですが、その生産者と本市が連携し「佐世保生まれの佐世保育ち」を合言葉に、数年前から岩がきの生産に取り組んできました。

マガキは冬場に旬を迎えますが、岩がきのおいしさが増すのは4月から8月までの時期。つまり、市内でカキを楽しめる期間が今までより長くなるのです。

美しく栄養豊富な九十九島の海で、手間暇かけて育てられた、安全でおいしい「岩がき」をご賞味ください。

☎観光物産振興局 ☎24-1111

## 徳育通信 ③ 徳育実践「一徳運動」

佐世保市民が一体となった「徳育のまちづくり」を目指すためには、一人一人が無理なく、できることから始めることが大切です。そこで、本市では「一徳運動」の推進を図ります。

例えば、家庭では「一日一回お手伝いしよう」、学校では「『ありがとう』をたくさん言おう」、地域では「あいさつを交わそう」、企業や職場では「笑顔で『お疲れさま』と声を掛け合おう」など、何でもよいのです。大切なことは、自分自身の心を磨き、互いに温かい心で触れ合うことによって、みんなが気持ちよく生活し、「笑顔いっぱいの佐世保のまちを築きましょう」ということです。

私の職場では「あいさつに一声」運動を展開しています。「おはよう、早いですね」「お疲れさま、また明日がんばりましょう」など、あいさつ



に一声添えるだけで相手も一声返してくれます。たったこれだけで、何かしら深い絆で結ばれているような気になってきます。市民みんなでこの一徳運動に取り組み、「よか人ばかり」と言われる佐世保のまちをつくりましょう。

前佐世保市徳育推進会議委員

早岐中学校長 山口 政則

「お疲れさま、また明日がんばりましょう」  
「おはよう、早いですね」  
「あいさつに一声」  
「ありがとう」  
「あいさつを交わそう」  
「笑顔で『お疲れさま』と声を掛け合おう」  
「一日一回お手伝いしよう」



徳育でキラッとひかる佐世保市民